

# 会 議 録

## 1 会議名

平成 26 年度 第 1 回上越市地産地消推進会議

## 2 開会

## 3 議事（公開・非公開の別）

- (1) 会長あいさつ（公開）
- (2) 上越市地産地消推進の店認定審査（非公開）
- (3) 今後の取組みについて（公開）
- (4) 意見交換（公開）
- (5) その他（公開）
- (6) 閉会

## 5 開催日時

平成 26 年 10 月 6 日（月）午後 2 時から午後 3 時 3 0 分

## 6 開催場所

上越市役所 3 階 302 会議室

## 7 傍聴人の数

0 名

## 8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：西脇健一、笹川玲子、岩崎健二、平澤正一、片田和夫、山崎軍太郎、  
上原みゆき
- ・オブザーバー：（代理）山田 一成（新潟県上越地域振興局農林振興部生産振興課長）
- ・事務局：農業政策課 佐藤課長、志賀係長、野村主任、川上臨時職員  
教育総務課 内藤副課長  
農業振興課 桐木副課長  
農林水産整備課 笠松副課長  
農林水産整備課 高橋副主任

## 9 発言の内容

開会

- (1)（佐藤課長による開会の言葉）

(2) あいさつ (公開)

西脇会長： 皆様、ご苦勞様でございます。大変お忙しい中また今日特に足元の悪い中お集りいただきましてありがとうございます。

地殻變動や異常気象等各地で被害が起り中越沖地震から10年の間にかなり悪いことがたくさんあったと思います。

異常気象で農産物が多くなったり少なくなったり異常な高値になったり、水産業界でも水揚げが前年度の1.5割ダウンで商売の中では厳しい時代に入ってきたのかという思いです。その中で地産地消の会議を外にアピールする事が大事だと思いますので、皆さんの意見を聞かせて頂きながら会議を進めていきたいと思ひます。

佐藤課長： ありがとうございます。

(会議資料の確認)

本日、高木委員、杉山委員、中川委員の3名はご欠席ということですが。

それではこれより先は、上越地産地消推進の店認定事業実施要綱により、会長から議事運営をお願いいたします。

西脇会長： それではしばらくの間議長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

引き続きお手元の次第に沿って進めさせていただきます。

次第「3. 議事・上越市地産地消推進の店認定審査」について事務局から説明願ひます。

(3) 上越市地産地消推進の店認定審査 (非公開)

(4) 今後の取組について (公開)

事務局(志賀)：資料5をもとに説明。

西脇会長： 今ほど、「4. 今後の取組みについて」について事務局から説明を受けましたが、認定店は限りがあると思ひます。地産地消の推進協議会としてこのまま続けていけば必ずお店がなくなってしまうと思ひている。地産地消推進会議も少し新しい方向に目を向ける必要があり、上越市にとって良いこと、生産者やお店が

もっと良くなる何かあればと考えています。

地産地消と上越市の認定商品を来年の新幹線の開通時、そのまま胸を張って出せる商品があるのかなと考えています。

高田しろり、ばななかぼちゃなどを県外から来られたお客さんに料理などで提案できるかという所です。

地場産の商品を使って何か物を作るといって例えば食育の分野に入るので、出来れば色々な会と合同会議を開催しながら上越市をもっとアピールする事が出来るのではと思っています。

委員の皆様からご意見、ご質問等ありますでしょうか。

上原： 色々な会議と合同、連携という方向は素晴らしいと思いました。

一緒に力を合わせてやっていく場面があれば良いのかなと思いました。

西脇： 調理師会の方でも上越産の商品を使って色々な料理を考えていらっしゃる。

今のままで行くと地産地消の中では関係ないと、埋もれているものを出し明るい方向で話をもっていき、この会だけでは出来ないことも連携すれば出来るのではないかと思います。

山崎： 会長、実は食に関係する推進会議はいくつかあります。上越の食を考える会、食を育む会、地産地消推進会議等いくつか食を中心としたそれぞれ活動している会がありまして、その会の連携会議がまたあります。市が主体で情報交換等を年に何回か集まり、事実やっておられます。

事務局(志賀)：食関連の観光、新幹線開業など、食を育む会も含め、様々な分野との連携が必要で、今回、食育の会議に地産地消の会長から新しい委員として入っていただきました。

西脇： もう少し意見交換した方が市の為になるのかなと思っています。

来年の新幹線開通により上越市を代表する認定店の中で代表する何か物を作り、上越市にお客様が来られたらこれがありますよと。例えばホワイト焼きそばのような物が市の認定の食べ物として胸を張って出せるような商品を認定して頂き市全体で提供出来るようなものにしたいと思っていました。今後、地産地消をどのように進めていくのか、委員の皆様から意見をいただければと思

います。

岩崎： 確かに今後の地産地消をどう進めていくかという中で、今までの取組んだ経過とこれからどうすれば良いのか議題にあがってこないといけない時期だと感じています。

大事な部分として市民の皆さんの地産地消に対する意識がどう変わってきたかという事を評価するとだいぶ変わってきていると思います。

お店の認定、品物、スタンプラリーも含めて、これが地場産なのかという意識、地元で採れる物を大事にしたいという意識が確かにこの活動を通じて培われてきたと感じています。

認定店を作りそれでもなかなか市民に伝わらないという課題から、スタンプラリー等イベントで意識対策をしていこうと。

会長がおっしゃるように新幹線開業を含め、これが上越だという品物が少し欠けているのも事実。

いくつかの例を上げますと、さつまいもを使ったスイーツの開発が新潟市で盛んです。新津は農家、商工会議所の皆さんでプチベールを使った産物の商品開発。長岡野菜は色々な品目での商品開発等、地域おこしと地域の皆さんの地産地消の意識を高めていく活動をされているなどと思います。

上越はというとやはりまだ足りていないように感じます。

単発的に与えられた課題の話し合いはされていると思いますが会長がおっしゃるように新幹線で上越に来られる方のアピールと地元の人もさらに地産地消の意識をあげる新しい発想、新しい話し合いが必要なのかと思いました。

ちなみにスタンプラリーは2回目でしたか。

事務局(志賀)： はい。そうです。

岩崎： PRの課題もあったのですが、なかなか浸透していないような感触を受けてしまいます。

平澤： 2回目という事もあると思います。

岩崎： そうですね。

笹川： 1回目よりもずいぶん良いと思います。

私達もチラシを手渡しで差し上げてますと、ナルスさんも参加されてるなら

と用紙を持って行かれます。飲食店だけ3店舗となると頻繁に外食出来るものではないので難しいと思います。

異業種が同じスタンプラリーに参加しているという意味では、取りかかりとして女性の反応は悪いものではないと思います。

確かに地産地消をすそ野まで広げようというのは大変な事だと思います。

飲食店やスーパーさんに地場産のコーナーを設けてもらい、主婦が同じものなら地元のもので安くて品物が良いのであれば地場産の品物を買おうという意識になっていくと思います。

実は当店も1店舗迷っていて明確な地場産の表示、どうしたら通年として出来るのだろうか考えた時に難しいと思いました。

広がってくれば経営者、飲食店もまだ申請しようと思っている所もあると思います。地産地消ののぼり旗が出ていて当たり前になるようになるまでたどり着くと完了になるのかと思います。

地道な活動になると思いますが引き続き長い目で見て頂いたうえで、連携等の取組みも大事な事だと思います。

西脇： 年間を通して水産品の地場産が難しい状態です。直江津から柿崎の水揚げは3月～6月迄がピークで今はほとんど皆無という状態です。

上越市の中でただ一つの漁港が名立漁港なのですが、地元にはなかなか出てこない仕組みになっています。そういうものを地産地消の会議の中で考えるとどうしてもなければならぬ漁港かと思っておりますので、行政の方で何か出来る手立てがあれば地元にもっと魚を出す話をしていただければと思います。

水産の方も名立漁港の魚を使った干物や上越市で取れた鯛のお刺身や焼物等お店でもっと大きく取り上げてもらえるのではないかと考えております。

行政を交えた中でもう少し商品の改革を進めていく為にはどうしても合同会議等が必要ではないかと考えております。

何かまた総合的にお話があれば皆さんにお聞きしたいと思います。

山田： 地産地消の取組みは以前、県の方がかなりやっていました。

今年から上越市に来たのですが新潟の方では産地が周りにあるのですが市民

が知らないという事で県も入り旬の産地巡りを消費者の方を集めて畑やハウスに行ったりしていました。まずは地元の方に知ってもらうことが一番大事だと思いますので、こういう地産地消のお店の認定等良い取組みになると思っています。

新幹線で他地域から訪れるお客様がさらに品物を買ったり、食べたりしてもらえるような取組みが進めば、農業の立場で言わせていただきますと生産の拡大になるのではないかと思いますのでそのような取組みも必要なのではないかと思います。

西脇： 新幹線が開通した時に地元の商品をアピールする長野県の会議に出席しました。

新潟県全体の上越市を含めたアピール商品を新幹線の妙高上越駅に集結するのも良いのではないかと思います。

岩崎： 紹介冊子作成とはいつ頃を目安に作成されるのでしょうか。

事務局(志賀)： これから仕様書作成、業者選定取材をし3月14日には必ず間に合わせるように作成したいと思います。

岩崎： ボリュームはどの位になるのでしょうか。

事務局(志賀)： A5判で50ページを想定しています。

岩崎： スタンプラリーは2回目ということで、PRや効果を検証されていると思うのですが1回目の実績を参考までに教えて下さい。

事務局(志賀)： 100名の商品を用意していたのですが97名の応募でした。初回から協賛を頂き本当にご協力いただきまして今回は店舗も増えました。今回は店舗に応募用紙の置き場所も考えて頂いたりスタンプラリー商品と知らないで飲食している方もいらっしゃるのでは飲食されたら手渡しして下さいと回りながらお願いさせてもらってきました。

山崎： 応募用紙はあるるん畑さんにもあるのですよね。

岩崎： 米が対象商品でポスターは米の後ろに掲示してあります。

西脇： 時間になりましたので地産地消推進会議を終了させていただきます。よろしいでしょうか。

事務局(志賀)： 事務局からご連絡させていただきます。  
資料4については、個人情報も含まれておりますので、この場で回収させていただきます。

佐藤課長： 西脇会長どうもありがとうございました。  
以上をもちまして、本日の「上越市地産地消推進会議」を終了いたします。  
皆様からご提案いただいた事は検討させていただきたいと思ひますし、スタンプラリーはあと一カ月とういことで皆様からもご協力頂ければと思ひております。どうぞよろしくお願ひ致します。

## 10 問合せ先

農林水産部農業政策課 TEL：025-526-5111（内線 1287）

E-mail：nougyou-seisaku@city.joetsu.lg.jp

## 11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。